

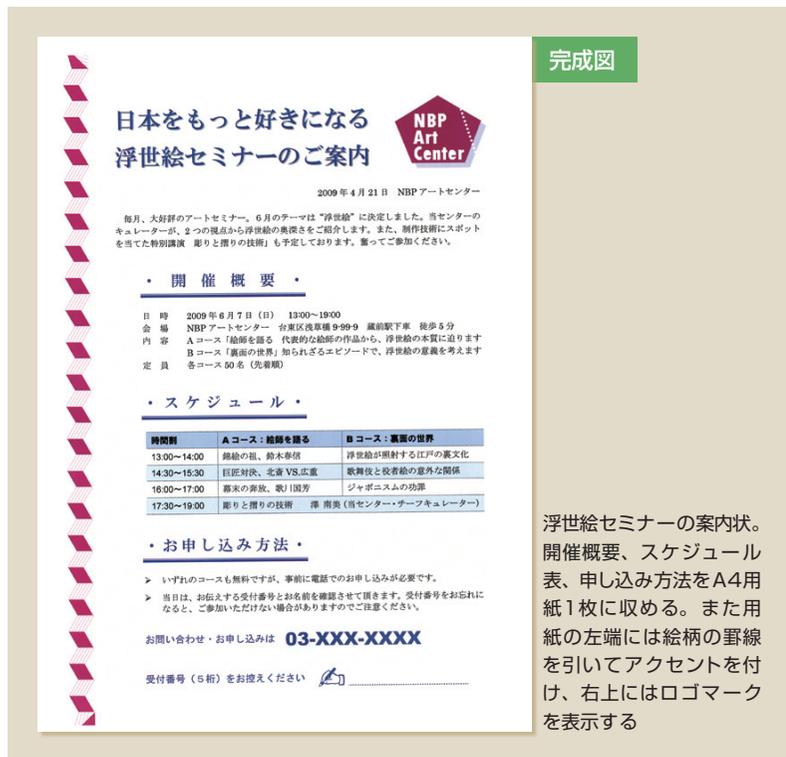
作って覚える Word

Word 2003を例に操作手順を解説します (Word 2007には非対応)

案内状

第1回 作りたい文書のイメージを固める

伊佐 恵子 テクニカルライター



文書には、読みやすさとインパクトが求められる。文章の分かりやすさも大切だが、見せ方はそれ以上に重要だ。本講座でもレイアウトにポイントを置きつつ、Wordの使い方を紹介していこう。実際に操作しながら、文書作りを楽しんでいただきたい。

例として作成するのは、アートセンターが主催する「浮世絵セミナー」の案内状。開催概要、スケジュール、申し込み方法、ロゴマークをA4用紙1枚に印刷する。

新しい文書を作るときは、完成イメージを思い描くことが大切だ。必要な文章をある程度入力したら、文書全体のレイアウトを考えよう。作業しながらアイデアが浮かぶこともあるので、大まかなイメージで構わない。案内状では、表や個条書きを使って、セミナーの内容を見やすく提示することにした。事務的な印象になるのを避けるため、用紙の左端には飾り罫線を引く。また浮世絵の和風を意識して、色は紫を基調にし、タイトル文字も明朝体に決めた。

第1回は文書の土台作りとして、ページの余白などを設定する。左端の絵柄の罫線を引き、さらにタイトル文字のスタイルも設定して、全体のイメージを固めよう。

1ページの文字量を増やす

では、Wordを起動して操作を始めよう。講座で使用する文書ファイルは、日経パソコンのサイトからダウンロードできる。すでにほとんどの文章を入力してある状態から始めることにする(図1)。

ページの余白と行数を設定する

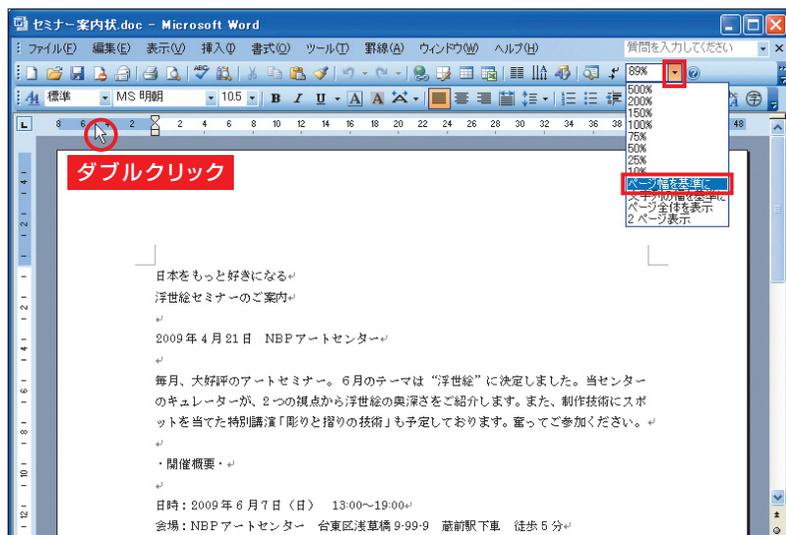


図1 日経パソコンのサイトからダウンロードした文書を開く。用紙の左右が表示されていない場合は「ズーム」ボックスで「ページ幅を基準に」を選択して表示倍率を変える。次に、ルーラーの余白部分をダブルクリックするか、「ファイル」メニューで「ページ設定」を選択

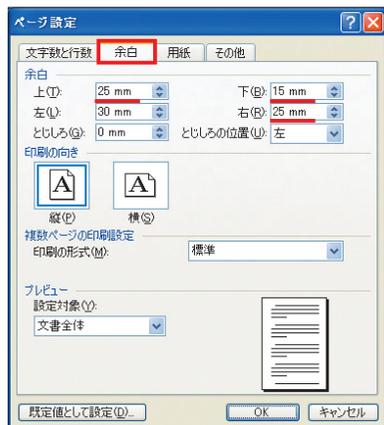


図2 「ページ設定」ダイアログボックスで「余白」タブを開き、上と右の余白を「25mm」、下の余白を「15mm」に変更する

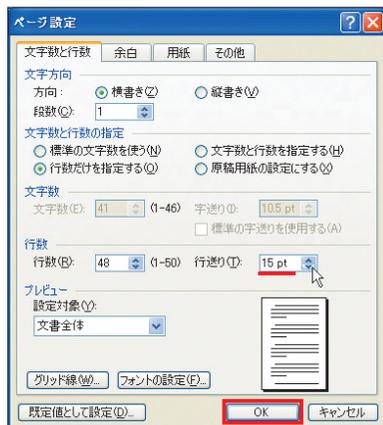


図3 「文字数と行数」タブを開き、「行送り」を「15pt」に変更する。「行数」は自動的に「48」に変わる。「OK」ボタンをクリック

画面表示は必要に応じて変更しよう。例えば、表示倍率はツールバーの「ズーム」ボックスで変更できる。ここでは「ページ幅を基準に」を選択し、用紙の左右を表示した(図1)。また、本講座では「標準」と「書式設定」のツールバーを2行に表示して操作する。ツールバー右端の細長いボタン(ツールバーオプション)をクリックして、「ボタンを2行に表示」を選べばOKだ。

準備ができたなら、ページ全体の設定をしよう。Wordの初期設定では用紙の周囲に広めの余白があり、行の間隔もゆったりとしている。案内状の内容が1ページに入りきらぬ可能性があるため、あらかじめ余白や行間を狭めておく。

まず、ルーラーの青い部分(Word 2002では灰色)をダブルクリックする(図1)。「ページ設定」ダイアログボックスが表示されたら「余白」タブを開き、余白の数値を指定しよう。今回は上と右の余白を「25mm」、下の余白を「15mm」に変更した(図2)。続いて「文字数と行数」タブを開き、「行送り」を「18pt」から「15pt」に変更する(図3)。「行送り」を狭めると、1ページに入る行数が自動的に増える。これで余白と行間が狭まり、入力可能な領域が広がった。

ページ罫線をアクセントに

ページの左余白を狭めなかったのは、ここに「ページ罫線」を引くためだ。ページ罫線はその名の通り、ページの周囲に引く枠線。罫線の位置、種類、色、太さは任意に設定できる。罫線の種類も用意されているので、表紙などの装飾にも重宝する。

まず「罫線」メニューから「線種とページ罫線と網かけの設定」を選択する(図4)。ダイアログボックスが開いたら「ページ罫線」

罫線のページ罫線を引く

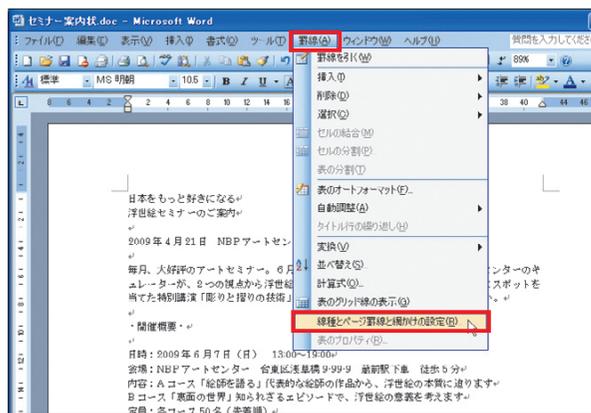


図4 「罫線」メニューから「線種とページ罫線と網かけの設定」を選択する

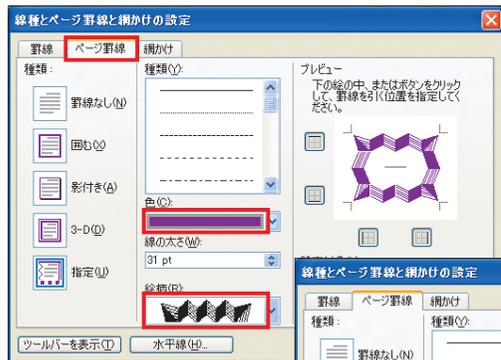


図5 「罫線」から利用したい罫線の柄を選び、必要に応じて「色」や「太さ」を変更する。ここでは「色」に「紫」を選んだ。「罫線」を選ぶ際、機能のインストールを促す表示が出た場合はメッセージに従ってインストールする

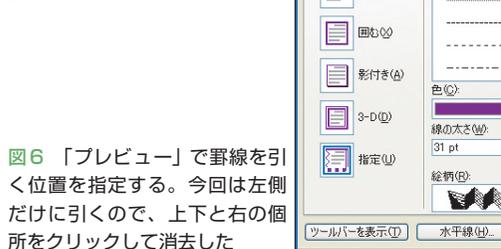


図6 「プレビュー」で罫線を引く位置を指定する。今回は左側だけに引くので、上と右の箇所をクリックして消去した

線」タブを開き、線種を指定する。今回は「絵柄」から罫線を選び、「色」に「紫」を指定した(図5)。色は右の▼をクリックし、パレットから選べばよい(図7を参照)。

罫線を引く位置は「プレビュー」で指定する。絵柄を指定すると上下左右に表示されるので、上下と右の罫線をクリックして消去しよう。表示／非表示はクリックするたびに切り替わる。周囲のボタンをクリックしてもよい(図6)。

これで設定はできたが、線の色はもう少し明るくしたい。そこで「色」のパレットから「その他の色」を選択し、「標準」タブで「紫」より明るい色を選んだ(図7、図8)。Wordでは、パレットにない色もこのようにダイアログボックスで指定できる。「ページ罫線」タブに戻って「OK」ボタンをクリックすると、ページの左端に絵柄の罫線が表示される(図9)。「ズーム」ボックスから「ページ全体を表示」を選んで、罫線の様子を確認してみよう。

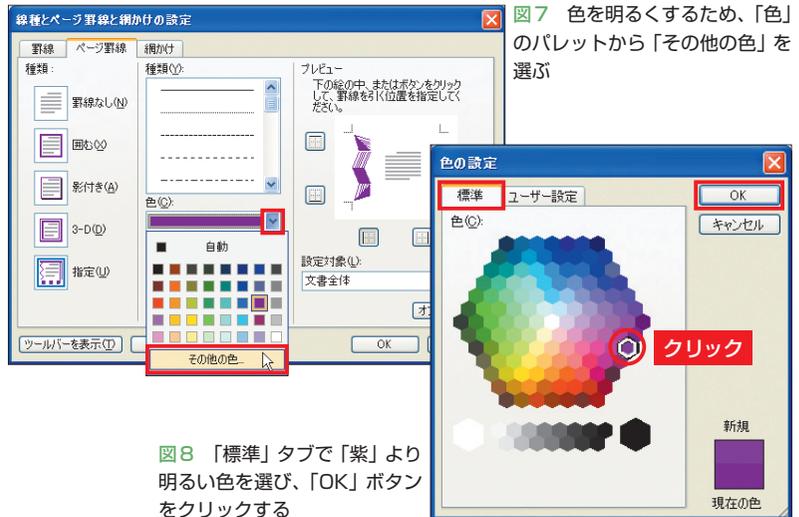


図8 「標準」タブで「紫」より明るい色を選び、「OK」ボタンをクリックする

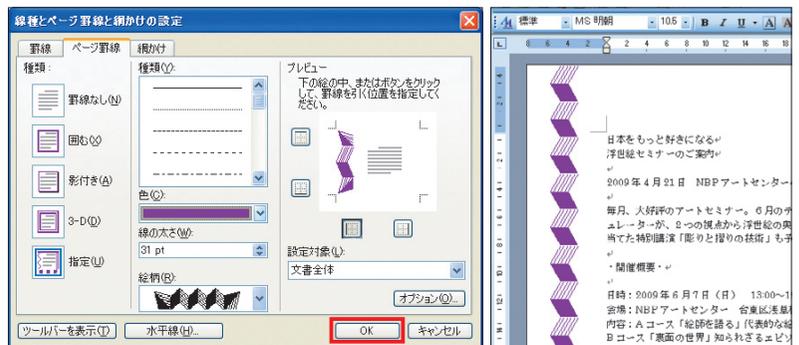


図9 罫線の色が明るめに変更された。「OK」ボタンをクリックする(左)。用紙の左端に、指定した絵柄の罫線が表示された(右)

影でタイトルに深みをプラス

ページ全体の設定が終わったら、タイトル文字のスタイルを変更する。まず、タイトルの2行を選択する。行を選択するときは、行の左端にマウスポインターを移動して☒に変わったところでクリックする。複数行のときはそのまま下にドラッグすればOKだ(図10)。

フォント(書体)、サイズ、文字色といったスタイルは、ツールバーで個別に指定できる。ここでは「フォント」ボックスから「HGS明朝E」(図11)、「フォント サイズ」ボックスから「28」ポイント(図12)、A(フォントの色)から「濃い青」を選択した(図13)。設定したら、一度選択を解除してス

タイトル文字を装飾する

● ツールバーでスタイルを設定する

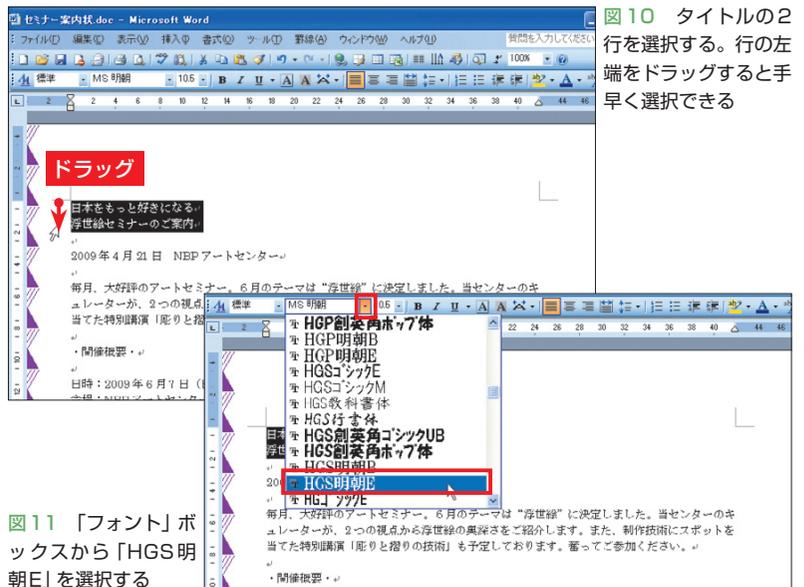


図11 「フォント」ボックスから「HGS明朝E」を選択する

図10 タイトルの2行を選択する。行の左端をドラッグすると手早く選択できる

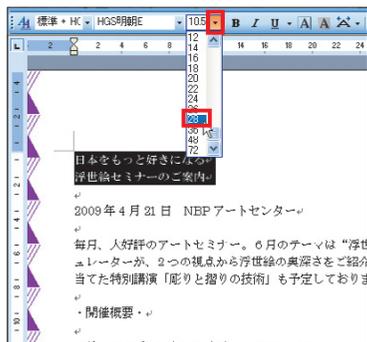


図12 「フォント」ボックスから「28」を選択する

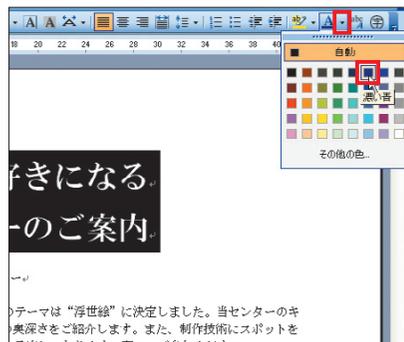


図13 サイズが変更された。「フォントの色」ボタン右の▼をクリックし、「濃い青」を選択する

●ダイアログボックスでスタイルを設定する

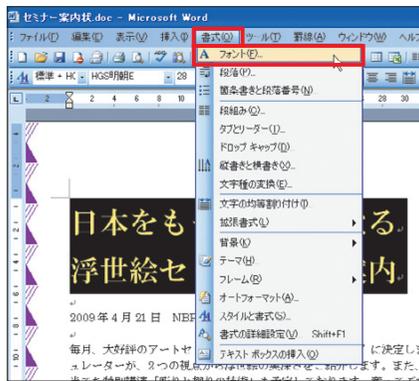


図14 「書式」メニューから「フォント」を選択する

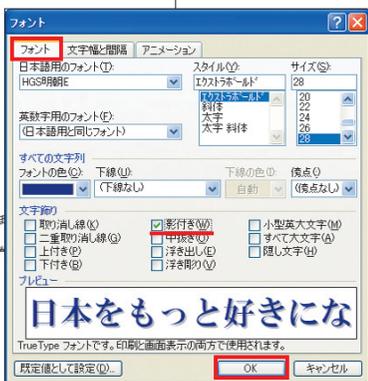


図15 設定したフォント、サイズ、色を確認できる。「影付き」をオンにして、「OK」ボタンをクリックする

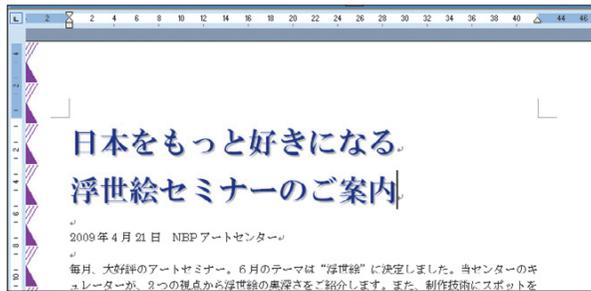


図16 タイトル文字に影が付き、深みのある印象になった

●3種類のフォントについて

JAPANをもっと好きになる	HG 明朝 E：全角文字、半角英数字のどちらも等幅
JAPANをもっと好きになる	HGS 明朝 E：全角文字は等幅、半角英数字はプロポーショナル
JAPANをもっと好きになる	HGP 明朝 E：全角文字、半角英数字のどちらもプロポーショナル

図17 フォント「明朝 E」には「HG 明朝 E」「HGS 明朝 E」「HGP 明朝 E」の3種類があり、それぞれ文字幅の扱いが異なる

タイトルを確かめよう。

続いてタイトル文字に影を付ける。再度2行を選択して「書式」メニューから「フォント」を選択し、ダイアログボックスで「影付き」をオンにしよう(図14、図15)。影を付けたことで、タイトルが深みのある印象になった(図16)。なお図15の「フォント」ダイアログボックスでは、選択文字列に設定しているフォント、サイズ、色などを確認できる。もちろん、ここでまとめて設定しても構わない。

文字幅でフォントを使い分ける

今回の作業はここまで。最後にフォントの補足説明をしておこう。「フォントボックス」には「MS 明朝」と「MSP 明朝」などのように、よく似たフォント名が表示される。両者の違いは、文字の幅が一定かどうかだ。Wordの初期設定であるMS 明朝は、すべての文字が同じ幅で表示される「等幅フォント」。対してMSP 明朝は、文字ごとに幅が異なる「プロポーショナルフォント」だ。例えば「つ」と「っ」の幅はMS 明朝では同じだが、MSP 明朝では「っ」の方が狭くなる。どちらを使うか迷うところだが、文字を詰めたいときはプロポーショナルフォントを使うなど、状況に応じて選択しよう。

案内状のタイトルに使った「HGS 明朝 E」にも、ほかに文字幅の異なる「HG 明朝 E」と「HGP 明朝 E」がある。違いは図17に示した。タイトル文字の2行は文字数が同じ(11文字)だったため、今回は「HGS 明朝 E」を設定して幅をそろえた。なお文字はすべて全角なので、「HG 明朝 E」を設定しても結果は同じだ。ちなみに「HGP 明朝 E」を設定すると、全角文字がプロポーショナルフォントになり、1行目の幅が狭くなる。